



平成 28 年 10 月 28 日

歯周病の発症リスクが職種で異なることを発見

岡山大学病院予防歯科の入江浩一郎講師、愛知学院大学、三重大学の共同研究グループは、歯科検診の受診者 3390 人を対象に 5 年間の追跡研究を行い、男性における歯周病の発症リスクが職種で異なることを明らかにしました。本研究結果は 10 月 26 日、疫学専門雑誌「*Journal of Epidemiology*」の電子版に掲載されました。

近年、職業や経済力等の社会経済的要因の違いで、健康に格差のあることが指摘されています。本研究から、生産工程・労務従事者、販売従事者、および運輸・通信従事者は、専門的・技術的従事者と比べて歯周病の発症リスクが高いことが分かりました。勤務形態、長時間労働などに由来する精神的なストレスは、歯科保健行動に悪影響を与えます。職業間における歯科保健行動の違いが、職業間格差の原因となっているのかもしれませんが。

現在、職域における歯科検診は任意です。しかし、生産工程・労務従事者、販売従事者、および運輸・通信従事者に対しては、定期的な歯科検診と歯科保健指導の実施が強く推奨されます。

<背景>

歯周病は、口腔内の細菌によって発症する慢性炎症性疾患です。喫煙やアルコール摂取といった生活習慣が、歯周病の危険因子であることがわかっています。さらに、学歴、職業や経済力等の社会経済的要因も、歯周病の危険因子になり得ることが指摘されています。

<業績>

岡山大学病院予防歯科の入江浩一郎講師、愛知学院大学の嶋崎義浩教授、三重大学の山崎亨助教の共同研究グループは、愛知県名古屋市内における歯科検診の受診者 3390 人（男性 2848 人；平均年齢 41.0±9.77 歳、女性 542 人；平均年齢 41.6±10.46 歳）を対象に、2001 年度から 2006 年度までの 5 年間の追跡研究を実施。職業の分類については、厚生労働省による職業分類（1987 年）に基づいて分類しました。

本研究の結果から、男性では、専門的・技術的従事者と比較して、生産工程・労務従事者は 2.52 倍、販売従事者は 2.39 倍、運輸・通信従事者は 2.74 倍歯周病発症のリスクが高いことがわかりました。これらの職種は、長時間労働や、十分な睡眠や休息が取れない傾向にあり、職業に由来する精神的なストレスが高いことが報告されています。また、職業による精神的なストレスは、歯科保健行動に悪影響を及ぼすことが知られています。すなわち、職業間における歯科保健行動の違いが、職業間で歯周病発症に差が生じた原因になったと推測されます。

一方、女性においては、歯周病の発症と職業との間に有意な関連はありませんでした。女性は男性に比べ、健康に対して気を遣う傾向にあり、社会経済学要因を受けにくいのかかもしれません。



PRESS RELEASE

<見込まれる成果>

生産工程・労務従事者や、販売従事者、運輸・通信従事者は、他の職種と比較して歯周病の発症リスクが高いことが示されました。職域における歯科検診は任意です。しかし、今後の成人期における歯科保健では、職業によっては、定期的な歯科検診と歯科保健指導の実施が強く推奨されるべきと考えます。

<論文情報等>

論文名： Is there an Occupational Status Gradient in the Development of Periodontal Disease in Japanese Workers?: A 5-year Prospective Cohort Study
「歯周病の発症と職業階層間との関連性について」

掲載誌： *Journal of Epidemiology*

著者： Koichiro Irie, Toru Yamazaki, Saori Yoshii, Hideo Takeyama, Yoshihiro Shimazaki

<補 足>

職業は収入、学歴と並ぶ代表的な社会階層の指標です。先進国において、さまざまな健康問題の格差が認められ、近年さらに健康格差が拡大しており喫緊の課題になっています。

<お問い合わせ>

岡山大学病院 予防歯科

講師 入江 浩一郎

(電話番号) 086-235-6712

(FAX番号) 086-235-6714